

背いた者のために
執り成しをしたのは

イザヤ書 53 : 4 - 12



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024年10月20日
聖霊降臨後第22主日

聖光教会にて

今日聞いた四つの聖書の箇所は、いずれもイエス・キリストをはっきりと示していました。このようなことは実は珍しいように思います。

まず旧約聖書はイザヤ書第 53 章、「苦難の僕」の姿です。最初のキリスト教会はここに、わたしたちのために苦しみを受けて死なれたイエス・キリストの姿を見出しました。

第 2 は詩編第 22 編です。今日唱えたのは 19 節以下ですが、1 節はあの十字架上のイエスの叫び、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」です。もしイエスが十字架の苦しみの中で、詩編第 22 編を唱えて祈られたのだとしたら、今日の箇所も十字架上の祈りです。

「主よ、遠く離れないでください || わたしの力よ、急いでわたしを助けてください」 22:19

第 3 は使徒書、ヘブライ人への手紙への手紙第 4 章でした。ここでは、わたしたちと同様に試練に遭われて、わたしたちのために執り成してくださる大祭司イエス・キリストが語られていました。

そして最後第 4 に、マルコによる福音書第 10 章では、イエスご自身が、自分は「仕えられるためではなく仕えるために来た」と語られました。

このように四つの聖書が順に、苦難の僕イエス、十字架上で祈られるイエス、わたしたちのための大祭司イエス、そして仕

えるために来られた ^{しもべ} 僕 イエス、を伝えています。言わばひとりの方イエスが、四つの方向から光を当てられているのです。

今日はこの四つの中から、旧約聖書イザヤ書 53 章の「苦難の僕」の姿を見つめてみましょう。

「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに
わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／
彼は苦しんでいるのだ、と。」 53:4

ひとりの方が痛めつけられて苦しんでいます。わたしたちはその人のことをこう思っていた、というのです。この人は神に打たれている。悪いことをしたから、神によって罰せられているのだ、と。

その人は刺し貫かれて、息絶えました。打たれ、傷つき、捨てられて、そして死んでいった無残な姿。神に背いた者の最後はこのようなものなのだと、わたしたちは思っていた、というのです。

それからどれくらい時間が過ぎたでしょうか。そのように打たれ、傷つけられ、死んでいったその人の姿が、わたしのまぶたの奥によみがえり、その人の目がわたしを見つめているような気がする。その目は平和で、穏やかで、わたしを慈しむかのような目です。

その人が何か言っているようです。祈っています。何を祈っているのか。だれかのことを祈っているようです。だれかのことを……。わたしです！ わたしのことを祈ってくれている。

突然、わたしの胸が刺し貫かれるような痛みが走りました。

この人は、わたしの平安と救いのために、わたしが癒やされるように、わたしの罪が赦されるように、祈ってくれている。今になってわかったのです。この人はわたしの背きを引き受けて苦しみ、死んだのだ、と！

何という申し訳ない誤解をしていたのでしょうか。この人が神に背いたのではなく、わたしたちが背いていた。間違っていたのはわたしたちだった。

その人の姿がありありと目の前に立ち現れます。その人を見つめているうちに、言葉が溢れてきます。

「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに

わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。

彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり

彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの^{とが}咎のためであった。

彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。」 53:4-5

なぜか、はっきりわかるのです。この人の受けた傷がわたしの傷を癒やしてくれる。この人の傷が深いほど、わたしの深い傷が癒やされていくのがわかります。

「わたしたちは羊の群れ／道を誤り、
それぞれの方角に向かって行った。」 53:6

それがわたしたちでした。道を誤って自分勝手な方角に向かって生きていた。

「そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。
苦役を課せられて、かがみ込み／彼は口を開かなかった。
^{ほふ}屠り場に引かれる小羊のように／毛を切る者の前に物を言わない羊のように／彼は口を開かなかった。

捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。」 53:6-8

そして最後はこう締めくくられます。

「多くの人の過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。」 53:12

この人を見よ！

このイザヤ書の言葉が語られ記されてからおよそ500年後、エルサレムで、ひとりの人が捕らえられ、裁きを受けて、打たれ、傷つき、そして死んでいきました。無残な最期でした。自分のことを「神の子」などと言って神に背いたから、こんな目に遭

ったのだと、十字架を取り囲んだ群衆の多くが思っていました。

しかしその人の姿にあのイザヤ書の言葉を思い起こした人々がいました。

「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに

わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。」53:4

ここに、イエスをはっきりと見出した人たちがいます。マリア、ペテロ、ヨハネ、マグダラのマリア、ステパノ、そしてパウロ……。自分の目が開かれて、その苦難の僕の姿にイエスを見て、イエスを信じた人々。その数が増し加わっていった。そうして教会が誕生しました。それを受け継いでいるのがわたしたちです。

あのイザヤ書の言葉のとおり、イエスは、わたしたちの病と痛みと背きを引き受けて、死なれた。この方の受けた傷によって、わたしたちは癒やされた。このイエスが、わたしのために祈ってくださり、わたしたちのために命を差し出してくださったのです。

イエスが死なれたのは、わたしたちに対する愛のゆえです。わたしたちが神をよく知らず、自分のこともよくわかっていなかった時に、わたしたちが背いていたその時に、イエスはわたしたちを愛して、苦難を忍ばれました。

イエスの受けられた苦しみと傷と死によって、わたしは深い自分の過ちに気づきます。けれども同時に、わたしの過ちを引き受けていてくださるイエスの深い愛を知ります。

「多くの人の過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。」 53:12

この方がわたしたちの救い主です。

祈ります。

主イエス・キリストよ、あなたが苦しみを受けて死なれたのは、わたしたちの救いのため、わたしたちへの愛のゆえでした。あなたの受けられた傷によってわたしたちは癒やされ、あなたの死によってわたしたちは新しいのちに生きることができます。わたしたちをみもとに引き寄せ、あなたのもとにおらせてください。アーメン